

# 令和7年度 千葉県における「ほんびのすがい東京湾海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

## （1）千葉県東京湾海域におけるホンビノスガイの漁業実態

ホンビノスガイは北米原産の国外外来種であり、国内には船舶のバラスト水により移入し、東京湾では、平成19年(2007年)頃から漁獲対象となっている。主に小型機船底びき網漁業や貝まき漁業で漁獲されており、近年は、東京湾内湾海域の重要な資源となっている。

## （2）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

### 目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

当面の間、年間漁獲量を直近5年間（平成28年(2016)から令和2年(2020)まで）の平均値（2,046トン・県内主要港）程度に維持し、資源の持続的な利用を図る。

### 該当する資源管理協定

「ほんびのすがい東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、「協定」という。）は、下表のとおりで、3漁協所属の約20名が、ホンビノスガイを対象とした、それぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、2協定となっている。

協定	備考	協定	備考
市川市		新富津	
船橋市			

本検証の対象協定

### 自主的取組

東京湾内湾の小型機船底びき網漁業では、関係漁業者により、内湾底びき網連絡協議会が組織されており、資源管理の取組は当該協議会で協議決定の上、実践している。（取組一覧は、下表のとおり）

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
小型機船底びき網漁業	休漁日の設定	定期休漁（火・土曜日） 定期休漁（火・土曜日）ただし、各市場の臨時開場日前日は出漁することが出来る。	新富津 市川市
	操業時間の制限、 漁具の制限	現場投網から網揚げまで7時間30分、 桁の幅3m以内、網の目合2寸5分以上、	全協定

協定に記載されている取組

上記取組の他、資源状況等に合わせて内湾底びき網連絡協議会で決定した、漁獲の制限（殻長3cm以上を採捕可能）や、海域の制限（トリガイ発生等があった場合に、別途協議して規制を設ける）、年末年始・お盆期間の休漁を実施している。

### (3) 資源管理の取組状況

本県東京湾海域の内湾主要漁協（目標における「県内主要港」と同義）のホンビノスガイ漁獲量は、2007年は159トンであったが、その後増加し、2014年には1,091トンに達した。さらに2015年に2,013トンに急増し、2017年には2,646トンとピークに達した。その後減少し、2024年は396トンとなっており、資源管理の目標において維持するとした平成28年から令和2年の漁獲量の平均値を下回っている。また、県の令和7年(2025)度資源評価では、現在の資源動向は減少、資源水準は低位となっている（図）。協定参加者による検証（以下、「自己点検」という。）では、全地区で、漁獲努力量は維持していると判断されているものの、漁獲量とCPUE（単位努力量あたり漁獲量）は減少と判断されており、資源評価の結果と一致している。また、魚価（単価）は上昇していると判断されている。

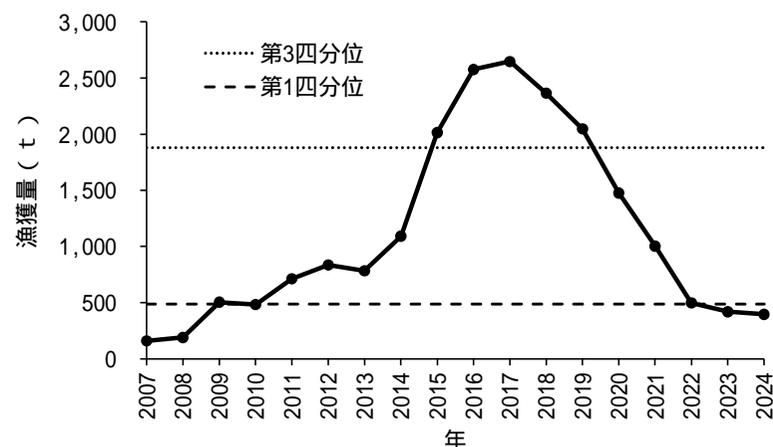


図 内湾主要漁協におけるホンビノスガイ漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

### (4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

ホンビノスガイは休漁日の設定や操業時間の制限、漁具の制限といった取組が実施されているものの、直近年の漁獲量は資源管理の目標を下回っており、自己点検では全地区で漁獲努力量は維持していると判断される中、漁獲量やCPUEの減少などにより「取組の効果は感じない」とされた。一方で、現在の取組が不十分とは判断されておらず、効果を感じられない要因は海洋環境による影響と判断されている。実際に、協定参加者の主漁場である東京湾内湾は貧酸素水塊等の海洋環境が漁業に大きく影響する海域であることも踏まえると、海洋環境が漁獲量や資源の減少の要因の1つであると考えられる。また、図の様に2017年以降は漁獲量が減少しているものの、2022年以降は2021年以前より減少が緩やかになっていることから、漁業者による取組が一定の効果を与えている可能性は否定できない。

このため、資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。